

まちかどニュース

身近なイベントや、まちかど話題を皆さんから募集しています。

～思い思いの願いを短冊に～ 竹丘南自治会・同自治会子ども会が七夕まつりを開催



梅雨の晴れ間となった7月3日、竹丘南自治会・同自治会子ども会による、毎年恒例の七夕まつりが行われました。用意された3本の竹に、おとなも子どもも、思い思いの願い事を短冊に込め、飾りつけました。

「2016きよせの環境・川まつり」今年も大盛況!

7月23日、台田運動公園及び柳瀬川河川区域で「2016きよせの環境・川まつり」が行われました。当日は多くの人が会場を訪れ、ブラス見学やスタンプラリーで環境について学んでいました。また子どもたちは川遊びなどで自然に触れ合い、環境保全の大切さを感じていました。



がんばりすと

各種大会で優秀な成績を収めた方・団体を紹介します。

市在住の大川誠歩さんが第19回東京都小学生相撲優勝大会で3位入賞し、都代表として関東大会へ出場

7月10日、靖国神社境内相撲場で行われた平成28年度JOCジュニアオリンピックカップ第19回東京都小学生相撲優勝大会において、市在住の大川誠歩さん(東星学園小5)が3位入賞し、都の代表として関東小学生優勝大会に出場することになりました。関東小学生優勝大会は、8月28日(日)、甲府市小瀬スポーツ公園武道館内相撲場で行われます。



左が大川誠歩さん。中央は講師の佐川聡彦氏。右は同じ道場に通う水野さん(小6)。

第36回 清瀬市民マラソン大会

NPO法人清瀬市体育協会主催による第36回清瀬市民マラソン大会を開催します。コース経路は市報9月15日号でお知らせします。
対象 小・中学生=市内在学の小学4年以上~中学生、一般=高校生以上
日時 10月10日(月)受け付け時間午前7時45分~8時15分
集合場所 八小
種目 4kmの部・7kmの部(小・中学生と一般女子の方は4kmのみ)

費用 小・中学生=500円、一般=千円
申込み方法 9月1日から15日までに、生涯学習スポーツ課・各地域市民センター・中央図書館・児童センター・コミュニティプラザひまわりにある申込み用紙に必要事項を記入し、小・中学生は保護者の署名・押印のうえ費用を添えて直接各窓口へ。
問合せ 清瀬文化スポーツ事業団 ☎493・4033

参加者 行方不明等高齢者捜索訓練 募集 「魚森さんをさがせ!!」

認知症の魚森さんがきよせ市民まつりで行方不明になったという想定で、行方不明等高齢者捜索訓練を行います。携帯電話やスマートフォンを使った捜索協力や、配布されるチラシを使っでの捜索協力があります。ぜひご参加ください。おとなのみ先着50人。

日時 10月16日(日)午後2時~3時
場所 きよせ市民まつり会場
※参加賞の受け渡し及び感想大会は、午後3時10分から消費生活センターにて行います。
申込み・問合せ 地域包括ケア推進課地域包括支援センター ☎497・2082

10月より紙おむつの無料収集が始まります

現在、紙おむつは可燃ごみとして指定収集袋に入れて出すことになっていますが、10月3日(月)からは家庭から出る紙おむつを無料収集します。汚物はトイレに流し、透明もしくは半透明の袋に「おむつ」と書いて、可燃ごみ収集日(月

・木曜日)午前8時30分までにごみ集積所へ出してください。詳細は市ホームページなどをご覧ください。
問合せ ごみ減量推進課ごみ減量推進係 ☎493・3750

3本の木とともに

清瀬には「見えない愛の力」が動いていると信じています。かつて、東洋一のサナトリウムのまちと言われ、約15の病院、5千を超える病床がありました。結核は国がなくなる病気と言われ、20世紀の100年間で日本だけでも約665万人の命が奪われました。

「溺れる者藁をもつかむ」どころか、「首吊りした人の首吊りの藁を食べれば結核が治る」(昭和6年梶井基次郎の小説『のんきな患者』)よりとまで言われるほど恐れられました。その結核と無数と言ってよいくらいの人々が清瀬で向かい合ってきたのです。

だから、石田波郷さんが「七夕竹惜命の文字 隠れなし」(中央公園

句碑)と詠んだのです。今はありませんが、清瀬小児病院も昭和23年に日本で初めての小児を対象とする結核専門療養施設として開設されました。親元を離れ入院し、結核と闘いながら、「お父さん、お母さん」と呼び続け、多くの子ども達に切ない人生を送ったでしょう。

「遠く病めば 銀河は永し 清瀬村」波郷句。清瀬の大自然に溶け込んで「命」と向かい合い、切実な人生を送った無数の魂が今でも清瀬を見つめていることでしょう。だから、「むすばれてはいる 同じいのちの痛みの根元で 陽が昇るまた 陽が沈む理由もなく共にいる理由もなく手をのべる人。愛として」の校歌の看護研修学校があり、「孤独、敗残、途に吹き 我が世 餓の野となれば 社会の福祉誰が任ぞ 忘我の愛と智の灯 捧げん世紀来たりけり 社大 社大 おおわれ

清瀬市長

渋谷 金太郎

ら」の日本社会事業大学が清瀬に移ってきたのでしょうか。また、都内の区では住民の反対運動が起きた障害者施設が今、清瀬で建設が進んでいます。私は反対の声を耳にしませんでした。清瀬にはきつと、「すべてを包み込む、見えない愛の力」が動いているのでしょうか。だからその力と一緒に、「津久井やまゆり園」に先日、御慰霊に行ってきました。報道陣などが多かったため、相模川をはさんで施設が見える山道で「大変な目にあわれましたね」と、ご冥福を祈りました。不思議なこと、帰りの車に乗る時に6688のナンバーの軽自動車を通り過ぎて行きました。私の誕生日の6月8日です。愛の力が動いたのかな?

清瀬 清瀬 清瀬 清瀬 清瀬 清瀬 清瀬 清瀬 清瀬 清瀬

小・中学生の俳句を紹介するコーナー。ぜひご応募ください。 選評 石田波郷俳句大会実行委員会

● 脱皮する心も肌も一夏で (評) 俳句は五七五の定型短詩。全部でわずか一七音の表現だから、あれもこれもいちいち説明することが出来ない。だから、一つのことばに複数のニュアンスを込める。この句の場合は「脱皮」。本当に夏の日差しに焼けた皮膚がむけること、ひと夏を越して心身ともに以前に比べ大いに成長するのだということ、「脱皮」の一語に込めた。
● すずきの葉風の国への道しるべ (評) すずきは秋の季語で、俳句のモチーフになるのはその種である場合が多い。ただ、この句の作者はそうではなくて葉のほうに注目した。そこがまずユニーク。そして、青いその葉で秋とはいえ現在がまだ残暑の季節であることを伝え、かつ、そのそよぎでさわやかな風の吹く本格的な秋の到来間近を表現した。なかなか巧みな一句。
● 太陽がはずかしがりやなつゆの空 (評) 俳句は日本の代表的な伝統文芸だが、現代の表現にも充分対応できるれっきとした詩の一つ。詩とは何かといえば、その人ならではの端的な表現で対象の真実を捉え、読む者に感動を与えるということ。この句では中七の「恥ずかしがり屋」が作者ならではの表現。いわゆる擬人法という表現だが、梅雨空をよく捉えて、よく伝わった。

第18回 つながりカフェ

つながりカフェは、誰でも参加できる交流や情報交換の場です。お友達と仲間と、もちろん一人の参加も大歓迎です。9月は噺家・笹の家小夏さんをお招きして落語会を開催します。
日時 9月1日(木)午後1時~3時30分(落語=午後1時30分~、ピンクッション作り=午後2時

20分~)
場所 男女共同参画センター
費用 100円(コーヒーまたは紅茶とお菓子付き)
※直接会場へ。
問合せ 男女共同参画センター ☎495・7002



笹の家小夏さん

投稿募集中 あなたも市報に参加しませんか

「まちかどニュース」「がんばりすと」への投稿を募集しています。
応募方法・問合せ 1日号・15日号ともに掲載希望号の1か月前(いずれも必着)までに、写真(データが望ましい)に説明(いずれも150字程度)を添えて、住所・氏名・電話番号を記入し、直接または郵送、メールで秘書広報課広報広聴係 ☎497・1808へ